



東京証券取引所 市場第一部  
証券コード 6926

# 2012年3月期(2011年度) 決算説明会資料

2012年5月31日(木)

岡谷電機産業株式会社

# **〔 I 〕 2012年3月期 (2011年度)決算説明**

# 2012年3月期 業績



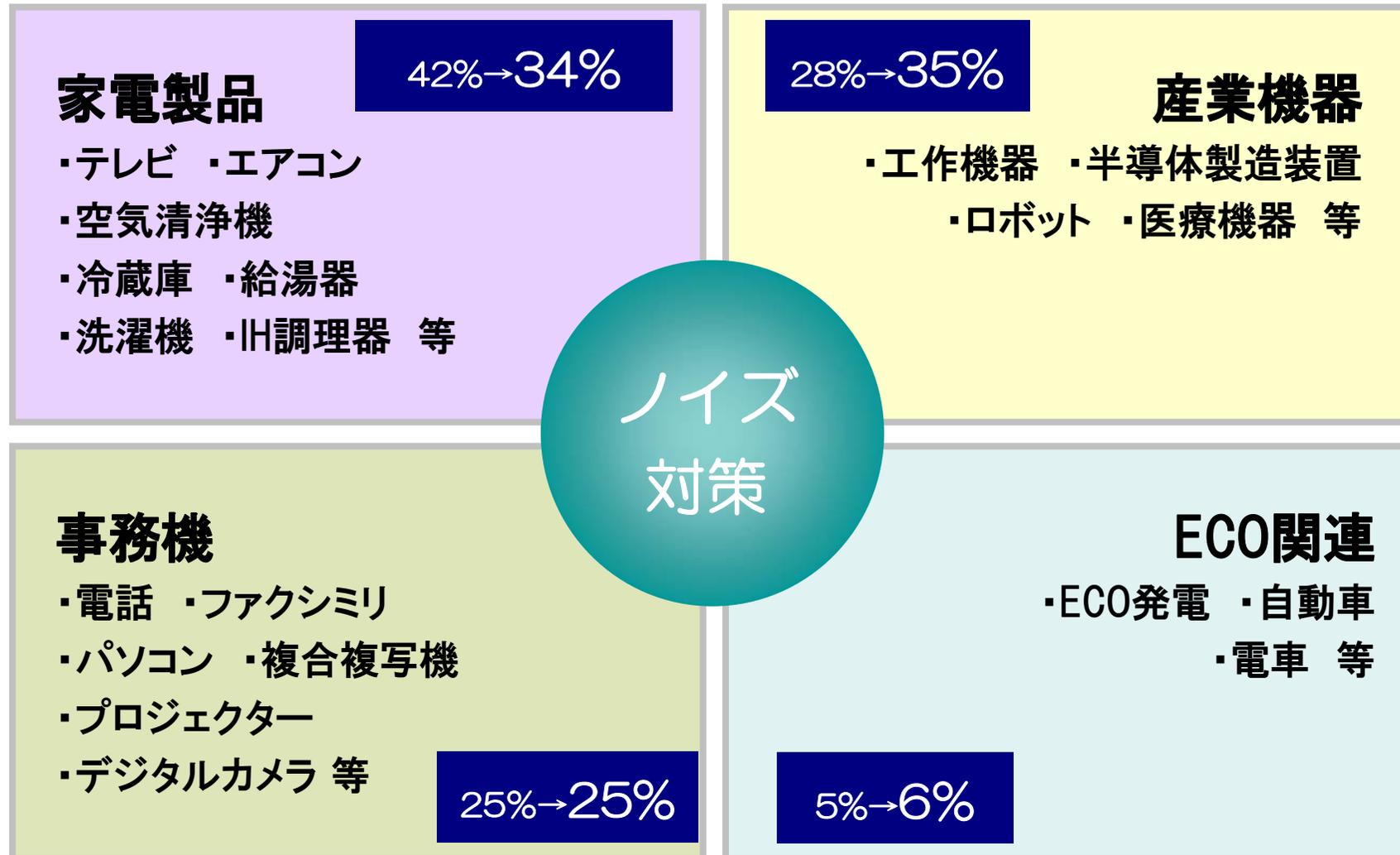
## 業績(連結)

(単位:百万円、%)

	11/3期	12/3期	増減	前期比
受注高	15,850	11,150	△4,700	70.3
売上高	14,488	12,432	△2,056	85.8
ノイズ	8,459	7,020	△1,439	83.0
サージ	2,664	2,287	△377	85.8
表示	2,761	2,554	△207	92.5
センサー	604	569	△35	94.2
売上総利益	3,979	2,965	△1,014	74.5
売上総利益率	27.4	23.8	(△3.6pt)	—
販売費及び一般管理費	2,456	2,361	△95	96.1
営業利益	1,523	603	△920	39.6
営業利益率	10.5	4.8	(△5.7pt)	—
営業外損益	△64	21	85	—
経常利益	1,459	625	△834	42.8
特別損益	△140	△44	96	—
当期純利益	895	398	△497	44.4

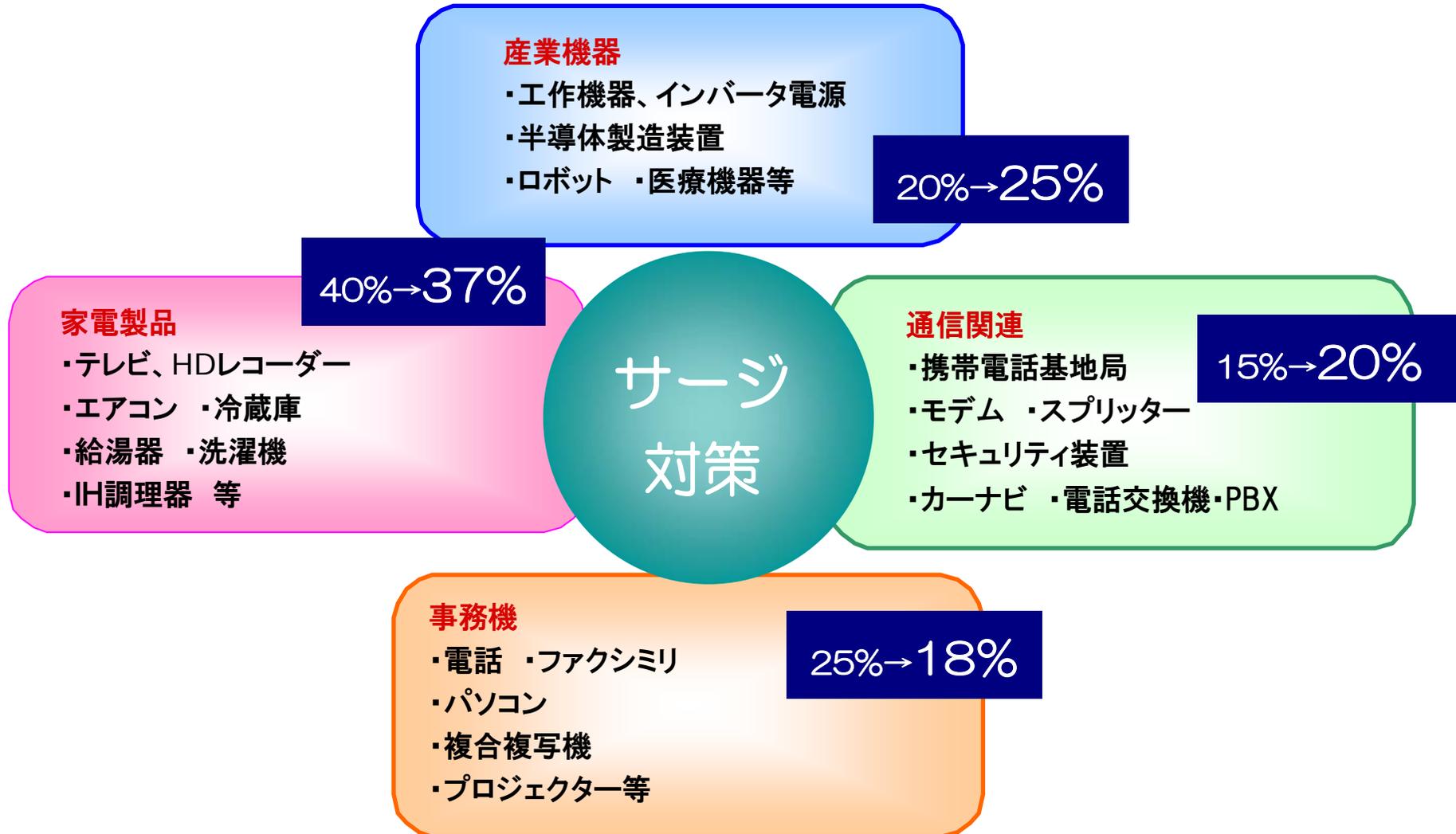
# ノイズ対策市場の現状

構成率変化 10年→11年

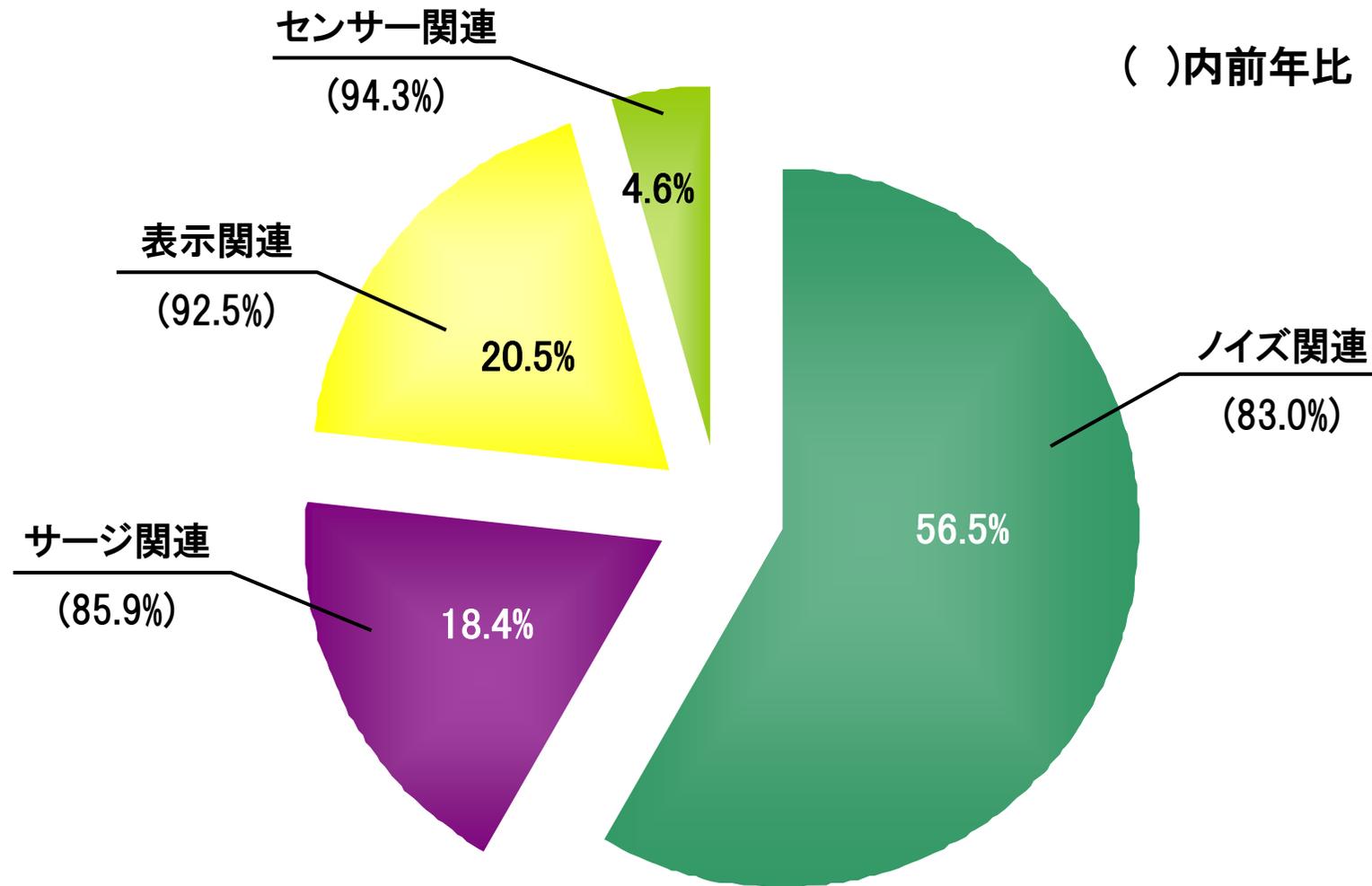


# サージ対策実施商品

構成率変化 10年→11年



# 事業別売上高

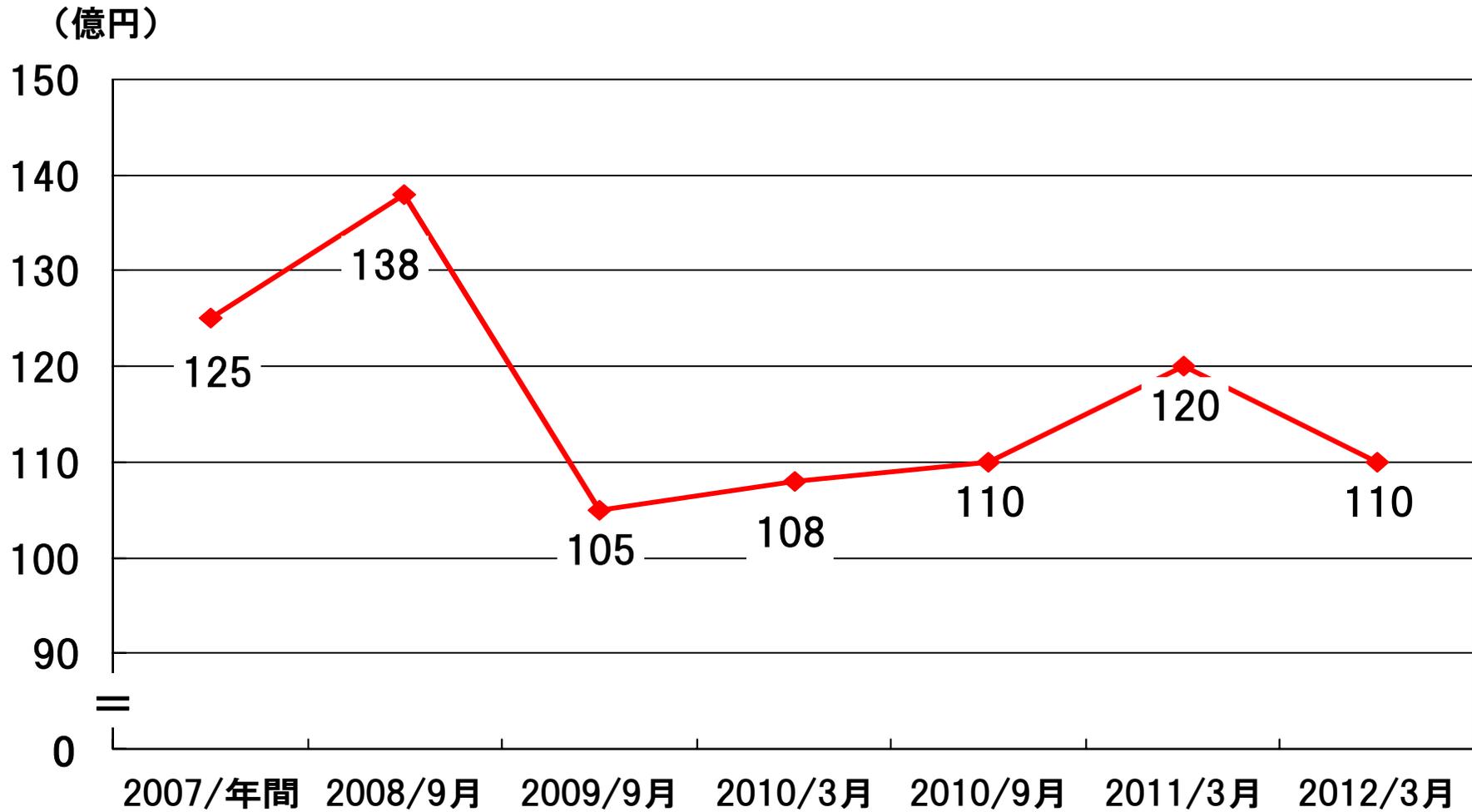


(売上高構成比 12/3期)

## 2011年度 受注・販売・生産動向

	国内	海外
上期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災により、ユーザーの部品調達が活発 →(結果的には、過剰在庫)</li> <li>・東日本大震災・円高・原発問題による電力不足等により、海外シフトが加速。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・為替の影響はあるものの、US\$ベースでは、家電・OAは順調な受注。 →(結果的には、作り過ぎ)</li> </ul>
		
下期	<ul style="list-style-type: none"> <li>家電・OA + 産機のシフト始まる。</li> <li>・上期の作り過ぎによる在庫調整</li> <li>・国内経済の低迷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上期の作り過ぎの大幅在庫調整。</li> <li>・EU向Asiaからの輸出が急減速。</li> <li>・中国経済の抑制により、内需が減少。</li> <li>・薄型TVの急減が大きい。</li> <li>・タイの洪水も直接、間接的には影響大。</li> </ul>

## 損益分岐点の推移（売上高／営業利益）



## 2012年3月期 財務状況(連結)

(単位:百万円)

	11/3期	12/3期	増減
流動資産	7,496	6,827	△669
現金預金	1,100	1,216	116
受取手形・売掛金	4,615	3,843	△772
たな卸資産	1,344	1,397	53
その他	436	369	△67
固定資産	5,351	5,313	△38
有形固定資産	2,819	2,836	17
建物・構築物	758	671	△87
機械装置・運搬具	731	936	205
工具器具・備品	90	73	△17
土地	1,095	1,094	△1
建設仮勘定	142	59	△83
無形固定資産	415	326	△89
投資その他の資産	2,117	2,151	34
流動負債	3,704	2,830	△874
支払手形・買掛金	1,425	1,013	△412
短期借入金	944	962	18
未払法人税等	387	36	△351
その他	947	818	△129
固定負債	1,400	1,337	△63
長期借入金	333	433	100
その他	1,066	903	△163
純資産(資本)	7,744	7,973	229
総資産	12,848	12,141	△707

・4Q売上減少による

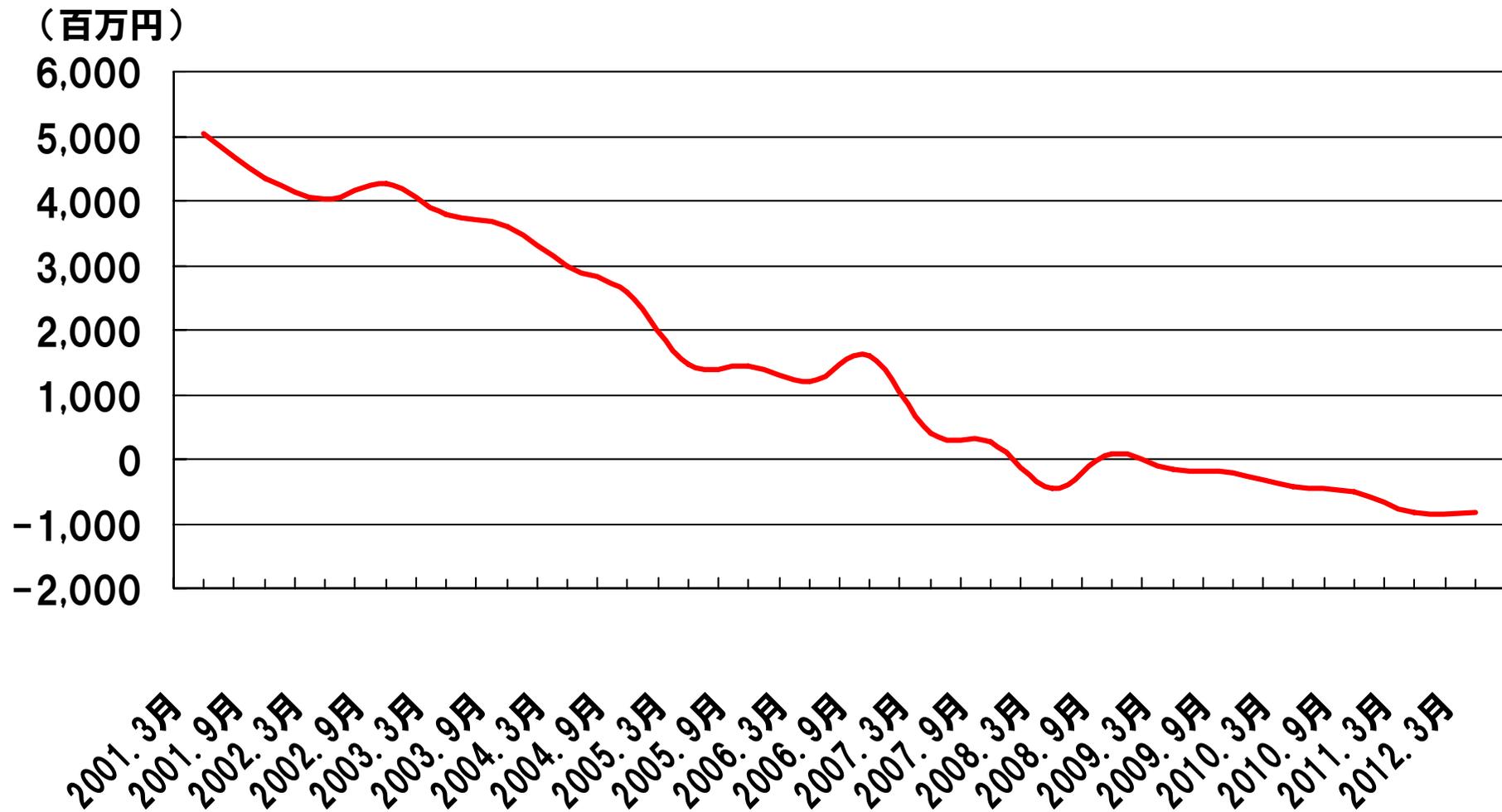
・設備投資 5.7億円  
・減価償却 △6.2億円

・有価証券の時価上昇  
1.4億円

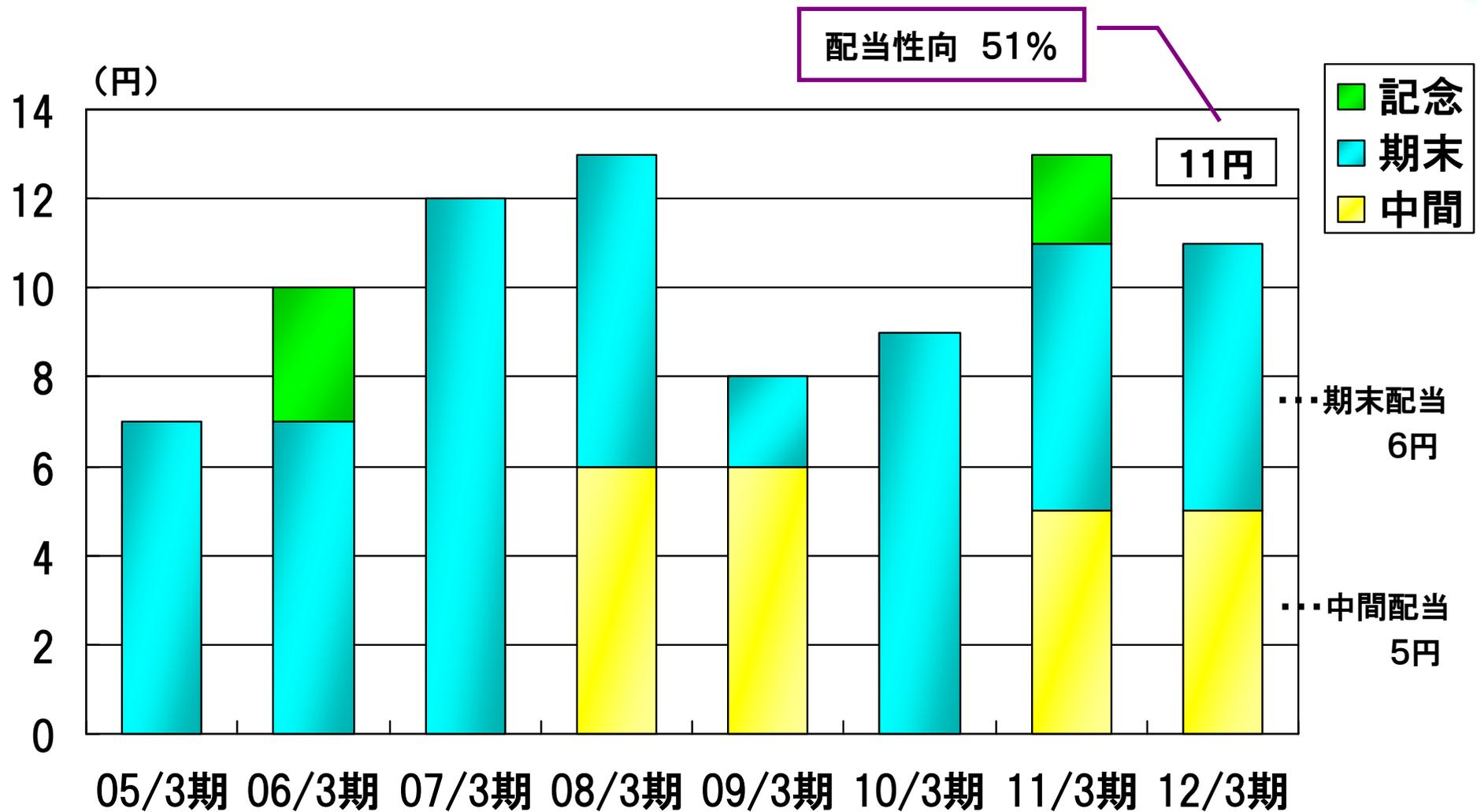
・4Q生産減少による

・自己資本比率  
60.3% → 65.5%

## 有利子負債の推移



# 配当の推移



# 2011年のテーマ

## (1)「人づくり」「質づくり」「新商品づくり」

項目	内容
<p><b>人づくり</b></p>	<p>(1)既存社員には、土曜日を使い又日頃の仕事上で、基本的には上司が口頭教育および同伴指導を行ってきた。・・・大きな進展は見えない            → <b>引続き、根気良く更に訓練も組合わせて、新年度継続</b></p> <p>(2)上級層中心に10人程度補強 —— 約6ヶ月の実地訓練を終えて、新年度より、組織の重要なメンバーとして活動開始。</p>
<p><b>質づくり</b></p>	<p>(1)製品品質については、「設計要因」を取り上げ、設計のDRおよび製品認定制度の運用を厳しく開始した。 → <b>2012年度成果</b></p> <p>(2)納期品質については、国内は受注生産で問題なし。海外は商慣習の違いから「看板方式」を採用、一部スタート。            → <b>2012年度順次拡大。</b></p>
<p><b>新商品 づくり</b></p>	<p>「事業の選択と集中」を積極的に行い、技術者も集中させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノイズ対策部品 —— 電源用+エネルギー関連(創エネ+蓄エネ+省エネ)へ特化</li> <li>・サージ対策部品 —— 電源用+通信用へ特化</li> <li>・表示部品 —— LED照明へ特化</li> <li>・センサー —— 光センサーへ特化</li> </ul>

### **(3)電気二重層キャパシタの開発 (TOCキャパシタ株)**

- 1. 第一期基本技術の開発終了**
- 2. 試作及び少量生産ラインの設置(2012年9月予定)  
.....(設備投資 26,000万円)**
- 3. 第一期開発商品のサンプル配布及び少量生産開始  
(2012年10月予定)**
- 4. 第二期基本技術の開発(2012年4月～2013年9月)**
- 5. 順次商品群を拡大 —— 2013年9月頃 次のSTEPを検討**

## (4)設備投資実績

5.7億円

前期比92%

1. 雑音防止用コンデンサ 8,000万本/月 体制確立
  - ・スリランカ工場 3,000万本/月 体制確立 設備投資 2.7億円
2. 電源用雷サージアブソーバ 1,200万本/月 体制確立
  - ・中国工場 1,100万本/月 体制確立 設備投資 0.7億円
3. 通信用SMDサージアブソーバ 500万本/月 体制確立
  - ……新しい技術開発に着手 2012年度予定
4. 中国工場の省人化投資 1.0億円
5. その他 1.3億円

## (5)研究開発投資

3.6億円

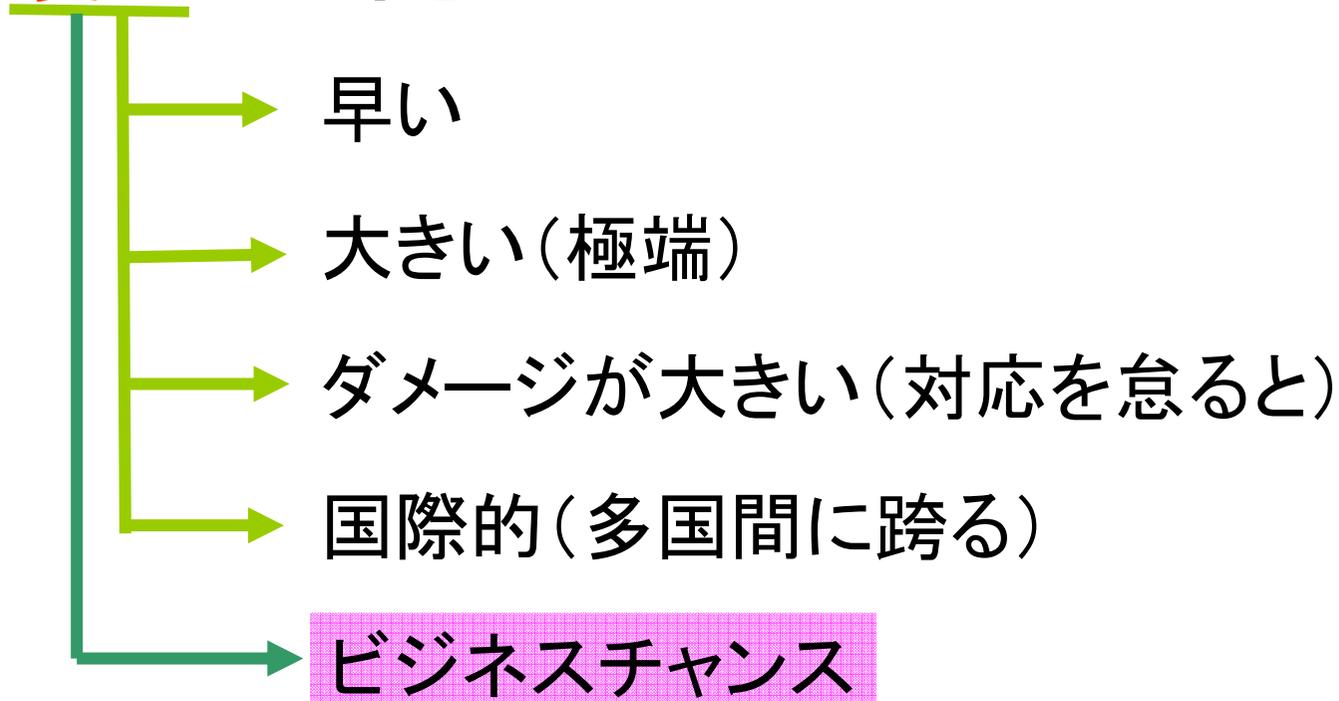
前期比117%

**〔Ⅱ〕 2013年3月期  
(2012年度)業績見通し  
および  
今後の戦略**

# 新年度(2012年度)を迎えて

——今まさに、変化の時代——

## 変化への対応

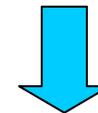


# 変化への対応（I）

**先進国**（日本・USA・EU等）

経済は低成長

共通課題は、「エネルギー問題」



国内事業の源

# 国内事業の育成

1. エネルギー関連事業
2. 新規参入業界の開拓

## 新規参入業界の開拓(従来市場)

1. 通信業界 ——— RHCA(新バージョン)を武器に参入
2. 医療機業界 ——— ノイズ・サージ・LED照明で参入
3. 自動車業界 ——— 周辺から参入 ——— 自動車業界体質をつくる
4. 半官・半民公共業界(電力、鉄道、道路・・・)  
————— RSPDで参入

## 変化への対応(Ⅱ)

### **新興国** (中国→ASEAN→インド)

— 経済は5～10%の成長

— 収入増(豊かさ増)→内需購買が急増

— 特に富裕層向がビジネスチャンス

# 中国の変化

— 2015年まで最低賃金を毎年13～15%上げる  
(2015年/2010年比 200%となる)

—————> OTTはコストUP

—————> 内需拡大

— 富裕層(約10～15%=1.3～2億人)が安全・安心・高級品を買う  
(日本の事業の再現)

— 中間層(毎年増加)の購買意欲が高まり、内需の大幅拡大

— 地球資源を大幅使用 — 材料のコストUP —> 入手難

# 2012年度 海外テーマ

## 1. 産業機器のシフト取込み

————— 中国を中心に、家電とは別に「シフト取込みチーム」をつくり、スタートしている。

## 2. 新興国マーケット

————— 各国ごと地域戦略営業を置いて、マーケット開拓を行う。

2012年度対象国 (1)中国

(2)インドネシア

(3)タイ

(4)ベトナム

(5)韓国

## 3. 次への準備 ————— インド

## 2012年度 生産体制

- 1. 国内** — コンデンサ ----- 大型化対応(岩手工場)  
LED ----- 多品種少量対応強化(福島工場)

## 2. 海外

(1)中国「東莞岡谷電子有限公司」— 2012年1月1日より独資会社スタート

①省人化投資

②多品種・少量・高付加価値品の生産体制(産業機器用対策)

(2)スリランカ「オカヤランカ」

①コンデンサ——全種対応化、量産工場

②コイルの生産拠点

# 営業利益

## マイナス要因

- ①部材費±0の見通し
- ②為替影響(円高、人民元高)
- ③中国東莞工場の人件費高騰  
および定着率の改善なし

## 主たる改善内容

- ①部材の改善
- ②スリランカ工場の増産
- ③中国東莞工場の機械化・省人化
- ④質向上  
(歩留・材料損失・高効率生産等)

## 2012年度 投資計画

1. 増産投資 ..... 300 百万円

雷サージ(RHCA)ライン増強

2. 省力化投資 ..... 300 百万円

東莞工場・スリランカ工場の自動化推進 ほか

3. その他 ..... 200 百万円

新商品開発・品質改善 ほか

---

計 800 百万円

4. TOCキャパシタ ..... 260 百万円

新商品開発

---

合計 1,060 百万円

・ **研究開発投資** ..... 450 百万円

## 2012年度 為替予算レート

2011年度予算レート

- 1 US \$ = 75円 (80円)
- 1 HK \$ = 9.6円 (10円)
- 1 SP \$ = 60円 (62円)
- 1 EUR = 100円 (115円)
- 1 RMB = 12円 (12.4円)

## 2013年3月期 業績見通し

### 業績(連結)

(単位:百万円、%)

	12/3期	13/3期 (計画)	増減	前年比	(参考)TOCC 連結組入分
売上高	12,432	13,000	568	104.6	10
ノイズ	7,020	7,280	260	103.7	
サージ	2,287	2,600	313	113.7	
表示	2,554	2,470	△84	96.7	
センサー	569	650	81	114.2	
営業利益	603	700	97	116.1	△150
営業利益率	4.8	5.4	0.6pt	—	(△1.1)
経常利益	625	700	75	112.0	△150
当期純利益	398	480	82	120.6	△75

## 2012年度 配当見込み

- ・ 中間配当 … 「5円」
- ・ 期末配当 … 「6円」

**年間配当 … 「11円」**

└─▶ 配当性向 51 %

# **ご清聴ありがとうございました ご支援のほどよろしくお願いいたします**

## **連絡先**

**窓 口：経営システム部**

**メールアドレス：OEl\_Kouhou@okayaelec.co.jp**

**電話番号：03-4544-7000**

**FAX番号：03-4544-7007**

なお、本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が、様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。